

小池 宏明 牧師

12 弟子の一人シモン・ペテロは、主イエス様のために「命も捨てます」「皆がつまずいても、私はつまずきません」と公言するほど張り切っていた。ところが、イエス様が十字架に掛かる前に、三度も「イエスのことを知らない」と主を否定するという大失態をしてしまう。ペテロは、自分の不甲斐無さに打ちひしがれ、絶望したことだろう。その後、ガリラヤ湖で漁師に戻ることにした。しかし、よみがえりの主イエス様が顕われて親しく語って下さった。

***復活の主のいやし**

15 節「彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたのご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの子羊を飼いなさい。」

このような対話が、三回繰り返される。イエス様の三回の問いかけは、ペテロの三回の裏切りを拭い去るものであった。ペテロにとって、過去の三回の裏切りは大きな心の傷となっていた。過去の心の傷に触れて下さる招きは、主イエス様だけができることである。主はペテロの傷に、そして私たちの傷に触れて回復させて下さるお方である。

***復活の主の招き**

イエス様は、ペテロに3回も「わたしを愛するか？」と問い掛けられ、ペテロのイエス様への愛を引き出して、3回の裏切りを払拭して下さった。そして三回ともイエス様は「わたしの羊を飼いなさい、牧しなさい」と命じておられる。やがて諸教会の監督になったペテロは、自ら記した手紙で以下のように牧会するように勧めている。ペテロの手紙第一 5 章 2-4 節「あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。割り当てられている人々を支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠をいただくことになります。」これは、今日、教会の牧師と役員が就任する時に朗読される御ことばでもある。また、古河教会で言えば、エイジグループのリーダーにも、小グループのリーダーにも適応して良いだろう。まず、メンバーの名前を挙げて執り成し祈ることから始めよう。治めることよりも、仕えていくリーダーでありたい。主に仕え、隣りに仕える者こそ、大牧者であるキリストから栄冠を頂く、小さな牧者なのだ。